

帯広市立栄小学校 学校便り

さかえ



令和4年8月26日発行

【学校経営の重点】

「和顔愛語 笑顔溢れる栄小学校」

～質の高い日常実践を通して～

【キャッチフレーズ（児童）】

「あたり前のことが
あたり前にできる 栄っ子」

2学期の始業に当たって

校長 塩田直之

保護者及び地域の皆様の多大なるお力添えにより、27日間の夏休みを終了することができましたことに心より感謝申し上げます。また、PCR検査等を受けることになった際に学校にご連絡をいただくなど、きめ細かなご対応をいただきましたことに重ねて感謝申し上げます。

さて、十勝管内のみならず、全国的に新型コロナウイルス感染症の新規感染者数が爆発的に拡大しており、今後の情勢が懸念される場所ですが、学校においてはこれまで以上に感染拡大のリスクを可能な限り低減しつつ、児童の学びを保障するよう尽力してまいります。

また、これまでと同様に児童や同居家族が新型コロナウイルス感染症に感染したり、PCR検査等を受けたりすることになった場合には学校にご連絡いただきますようお願い申し上げます。

2学期においても、保護者の皆様のご理解・ご協力を賜りながら感染防止対策を推進するとともに全力を挙げて教育活動に邁進していく覚悟でございますので、今後も引き続きご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

「何でも楽しむ！」ために心がけてほしいこと

ビデオ会議ツール「Google Meet」を使用して、7月22日（金）に1学期終業式、8月19日（金）に2学期始業式を実施しました。

2学期始業式の校長講話において「何でも楽しむ！」を2学期の合い言葉にしながら、学校生活を大いに楽しんでほしいという話をまずはじめにしました。

次に、「何でも楽しむ！」ために、①他人と自分を比べない、②まわりの目を気にしすぎない、③やる前からできないといわない、④失敗してもよいと思う、⑤こんな日があってもよいと思う、⑥小さなことでも幸せを感じることを心がけてほしいという話をしました。

何人かの子どもたちと話している中で、「こんな日があってもよいと思う」が印象的であり、嫌なことがあったときはかなり落ち込むので、これからはこのように思うようにしたいと言っていました。

それぞれの式において、児童会代表と学年代表が1学期の反省や2学期の抱負などについて、自分の考えを堂々と発表していました。立派な発表であり、それぞれの児童が発表し終わると校舎内の色々なところから拍手が沸き起こるなど、温かい雰囲気を感じることができました。発表者は次のとおりです。

2学期の合い言葉 **何でも楽しむ!**

- 他人と自分を比べない
- まわりの目を気にしすぎない
- やる前からできないといわない
- 失敗してもよいと思う
- こんな日があってもよいと思う
- 小さなことでも幸せを感じる

	児童会代表	学年代表
1学期終業式	三島龍之助（副会長）	加藤 希衣（2年） 福司 眞夕（4年） 土田留衣香（6年）
2学期始業式	佐藤 遼旺（書記）	堀川 心花（1年） 津川 希子（3年） 高橋 小梅（5年）

9月の主な行事予定

1	木	開校記念日
2	金	交通安全指導 プール学習(4, 2, 3, 5年) 北海道教育庁教育行政視察 PTA総務部ラベル貼り作業(18:30~)
3	土	
4	日	
5	月	PTA会費納入日(低学年) 職員会議 栄っ子ふれあいひろば
6	火	PTA会費納入日(中学年) 郷土体験学習
7	水	PTA会費納入日(高学年) 帯広市教育研究会教育講演会 学年研修
8	木	PTA会費納入日(予備日)
9	金	ALT クラブ活動
10	土	
11	日	
12	月	給食費納入日(低学年) プール学習(1, 4, 5, 3年)
13	火	給食費納入日(中学年) ALT
14	水	給食費納入日(高学年) ALT 学年研修 PTAベルマーク部作業(18:30~)
15	木	給食費納入日(予備日) おびひろ市民学・防災講座(4年) PTAベルマーク部作業(18:30~)
16	金	児童会活動
17	土	
18	日	
19	月	敬老の日
20	火	プール学習(5, 1, 2, 6年) ALT
21	水	学年研修 バス学習(2年)
22	木	
23	金	秋分の日
24	土	
25	日	
26	月	研修会議
27	火	おびひろ市民学・地球の環境(4年)
28	水	学年研修
29	木	
30	金	あゆみ配付 クラブ活動

すごい！力作が勢揃い！

夏休み作品展を開催しています。その様子(一部)については、栄小学校ホームページに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。



意欲的な姿勢が立派！

7月21日(木) 回転寿司チェーン・くら寿司による出張授業「お寿司で学ぶSDGs」が5年生を対象に実施されました。

回転寿司を通して、水産業の未来や食品ロスの現状など、食をめぐる課題について考えることができました。

当日は、実寸サイズの魚の模型に触れたり、回転レーンを使って模擬体験をしたりするなど、意欲的に学習していました。その姿勢が立派であり、講師の方々から「5年生の反応がよいので、とても楽しく話すことができた」という声が寄せられています。

本校においては、子どもたちの知的好奇心を一層高めるため、講師を招聘した授業を可能な限り多く実施するなど、子どもたちが「本物に触れる機会」を大切にしていきたいと考えています。

